

理科 第5学年 ふりこのきまり 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「ふりがが往復する時間は、何を変えると変わるだろうか」について予想を基に調べる方法を考え、変える条件や資料の選び方の理由を表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。A(2)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：振り子の長さ・おもりの重さ・振れ幅のうち調べる条件を選び、変える条件とそろえる条件を表にする。複数回の往復をまとめて測って往復当たりの時間を求め、測定の際につきも記録して比較する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。A(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：重いほど速いという予想を間違いとして消さず、確かめる条件を決める出発点にする。長さは糸だけでなく支点からおもりの中心までを測り、押して放した結果は分ける 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。A(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。長さや振れ幅を変えて測る活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：おもりの通る範囲に顔や手を入れない。支柱や糸の固定を点検し、人へ向けて振らない 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、A(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：振り子の長さ・おもりの重さ・振れ幅のうち調べる条件を選び、変える条件とそろえる条件を表にする。複数回の往復をまとめて測って往復当たりの時間を求め、測定の際につきも記録して比較する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全7時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「ふりがが往復する時間は、何を変えると変わるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「ふりがが往復する時間は、何を変えると変わるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。振り子の時間を変える方法を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

